

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190900060		
法人名	株式会社 ティーアート		
事業所名	グループホーム 季楽里ふあむ		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲1879番地21		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年12月7日	外部評価確定日	令和3年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>太陽の光が差し込むリビングを中心に各居室が配置され、入所者が居室の扉を開けるとスタッフや入所者の姿が見える。スタッフを基準より多く配置していることにより、入所者へきめ細かな対応が出来る様に心掛けている。また、2ユニットに増床したことによって、折に触れ交流し楽しみを持ちながら毎日の生活に楽しみを持って頂けるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成29年に開設した2ユニットの事業所である。法人の理念「敬愛の心」「感謝の心」「献身の心」を基にして、「利用者一人ひとりに適した専門的で上質な介護の提供」し、「利用者がまるで我が家の暮らし」の実現を目指している。利用者中心の支援は、利用者のおだやかな表情となって現れている。</p> <p>代表者の住まいが事業所の隣りにあり、管理者を含む職員も同じ町内が多い。それだけに地域との結び付きも深まっている。散歩の途中に近所の方から「お茶でもどうぞ」の声かけもある。以前は、利用者の希望する街中での買い物や外食、足湯、公園までのドライブ等にも出かけていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のために思うように実現できていない。ホーム内で出来る行事を工夫し、暮らしに変化をつけている。</p> <p>利用者の楽しみの一つである食事には、調理専任の職員を配置し、利用者一人ひとりにあった食事が提供されている。今年増床されたユニットには特殊浴槽が備えられ、これまで以上の入浴支援ができています。新型コロナウイルス感染防止には細心の注意を払っている。健康支援も手厚く、かかりつけ医や歯科医の定期的な往診があり、何時でも相談や受診もできる。口腔ケアも行き届き、家族にも安心感をもたらしている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「企業理念」を事務所に掲示し、毎朝朝礼時に唱和を行い実践への意識付けを行っているが、声掛けや対応面で理念に基づいた対応が実践できていない部分もある為、折に触れ理念を具体的に助言している。	「企業理念」を事務所に掲示し、毎朝朝礼時に唱和を行い実践への意識付けを行っているが、声掛けや対応面で理念に基づいた対応が実践できていない部分もある為、折に触れ理念を具体的に助言している。	法人の基本理念「敬愛」「献身」「感謝」を基にして、事業所独自の理念が創られている。管理者は理念が目指すものを具体的な支援場面を通して助言、指導している。ユニット増床に伴い、職員数も多くなったが、全職員が理念を共有し、同じ方向を向いての支援の実現を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の班に入会しており、回覧板にて地域の情報を得ている。また、近所の方々との交流もあり、植木や生花の差し入れ等も頂いたり、近隣の散歩時には会話をするなど交流を深めている。	地区の班に入会しており、回覧板にて地域の情報を得ている。また、近所の方々との交流もあり、植木や生花の差し入れ等も頂いたり、近隣の散歩時には会話をするなど交流を深めている。	代表者の自宅が事業所の隣にあり、管理者も事業所近くに住んでいて、それだけに、より地域との関わりが深まっている。散歩の途中で近所の方と挨拶を交わしたり、お茶のお誘いにお世話になる事もある。見事に咲いた菊の鉢も届いている。職員が時間を見つけて、ごみステーション周りの清掃をする事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の方々に向けた取り組みは出来ていないが、今後は職員を中心に交流会を行っていききたい。	現在地域の方々に向けた取り組みは出来ていないが、今後は職員を中心に交流会を行っていききたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回の頻度でB棟と一緒に開催している。入所者の入退所や入退院状況や生活の状況、ヒヤリハット報や行事内容報告し、出席からの現状での質問や改善すべき点などの意見を頂いている。また、出席出来なかった方には質問や意見を伺い回答を行っている。	運営推進会議は2か月に1回の頻度でA棟と一緒に開催している。入所者の入退所や入退院状況や生活の状況、ヒヤリハット報や行事内容報告し、出席からの現状での質問や改善すべき点などの意見を頂いている。また、出席出来なかった方には質問や意見を伺い回答を行っている。	年6回の開催だが、新型コロナウイルス拡大防止のために開催できなかった時は、資料を送付して、意見をもらっている。事業所が土砂災害のハザードマップに含まれているので、地域と一体になった災害対策等についても話し合われている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への出席や運営推進会議へ出席をしていただき協力関係を築く要取り組んでいる。また、保険者へは介護保険サービス内容等についての質問票を用いて入所者への対応についての意見を頂いている。	地域ケア会議への出席や運営推進会議へ出席をしていただき協力関係を築く要取り組んでいる。また、保険者へは介護保険サービス内容等についての質問票を用いて入所者への対応についての意見を頂いている。	運営推進会議や地域ケア会議で協力関係を保つだけでなく、管理者がメールやファックスで情報を伝えたり、直接出向いて諸課題の共有を図っている。行政とはより良い連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない方針だが、以前入所者の離接行為があり、安全面を考慮し玄関は施錠をしている。ベッドからの転落や転倒リスクのある方にはご家族への説明を行いシルエットセンサーを設置している。身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回委員会を開催、(必要時は毎月開催)事例検討や身体拘束等の適正化の為の研修を定期的実施。	基本的に身体拘束は行わない方針だが、以前入所者の離接行為があり、安全面を考慮し玄関は施錠をしている。ベッドからの転落や転倒リスクのある方にはご家族への説明を行いシルエットセンサーを設置している。身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回委員会を開催、(必要時は毎月開催)事例検討や身体拘束等の適正化の為の研修を定期的実施。	身体拘束や言葉による拘束の無いケアについての職員の意識は高い。研修会や勉強会で身体拘束の具体的な行為の学習を重ね、拘束の利用者の心に積み重なる弊害について理解している。家族の了承を得てのシルエットセンサーの設置は、職員も利用して良かったと感じている。	利用者の状況から現在止むを得ず、玄関が施錠されている。どうしても施錠が必要か、施錠の時間帯を限定出来ないか等、身体拘束委員会での再検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は佐賀県グループホーム協会やグループホーム交流会が主催する虐待防止研修会等に参加し、内容をミーティング時に報告したり、折に触れ事例検討を行っている。	職員は佐賀県グループホーム協会やグループホーム交流会が主催する虐待防止研修会等に参加し、内容をミーティング時に報告したり、折に触れ事例検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がない為、今後研修会等が開催された際には積極的に参加し、必要時に活用出来るよう理解を深めていきたい。	現時点で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がない為、今後研修会等が開催された際には積極的に参加し、必要時に活用出来るよう理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間をかけ説明を行っている。また、記載内容から変更があった際には文書にて説明を行っている。	契約に関しては十分な時間をかけ説明を行っている。また、記載内容から変更があった際には文書にて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事に出席して頂いた際や運営推進会議への参加時に意見や要望を伺い運営に反映させて頂いている。また、施設サービス計画書作成の際は、本人、家族の意向確認を行っている。	面会や行事に出席して頂いた際や運営推進会議への参加時に意見や要望を伺い運営に反映させて頂いている。また、施設サービス計画書作成の際は、本人、家族の意向確認を行っている。	家族の面会時に要望や意見、お尋ねを聴く事が多く、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族アンケートでも利用者や家族と同じ目線で考えてくれるので要望を伝えやすいとの声がある。居室の整頓に関しても、利用者本人にとって大切なものを第一に考えての支援である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や月に1回のミーティング時は管理者、代表者ともに出席、管理者は折に触れ職員からの意見を聞き取り、入所者のケアに関する事は全員でディスカッションを行っている。また、行事、業務改善についても同様に職員全員で意見を出し合い反映している。	毎朝の朝礼や月に1回のミーティング時は管理者、代表者ともに出席、管理者は折に触れ職員からの意見を聞き取り、入所者のケアに関する事は全員でディスカッションを行っている。また、行事、業務改善についても同様に職員全員で意見を出し合い反映している。	全職員がお互いに自由に意見が言える職員間関係である。代表者は定例の会議時以外にも頻繁に顔を出して利用者や職員と接し、現場の空気や様子を把握している。介護用品の購入、調理専任職員の導入、定数以上の職員配置、新型コロナウイルス感染防止のための具体策、行事の検討など多くの事が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も日々の業務に入り職員とのコミュニケーションを図りながら向上心や環境の整備に努めている。また管理者と密な連携を図る事で職員個々の勤務状況を把握している。	代表者も日々の業務に入り職員とのコミュニケーションを図りながら向上心や環境の整備に努めている。また管理者と密な連携を図る事で職員個々の勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては保険者や社会福祉協議会等の通知による研修案内の情報を取り入れ必要な職員に研修派遣を行っている。また今後は職員個々の能力を見ながら管理者主催による内研修を行っていく予定である。	外部研修に関しては保険者や社会福祉協議会等の通知による研修案内の情報を取り入れ必要な職員に研修派遣を行っている。また今後は職員個々の能力を見ながら管理者主催による内研修を行っていく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	杵藤地区のグループホーム交流会に参加する事で同業者との交流や勉強会の機会が持っている。	杵藤地区のグループホーム交流会に参加する事で同業者との交流や勉強会の機会が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人との面会や、他事業所からの情報を通じて現在までの生活歴や背景、現在困っている事や今後の生活に対する意向等を汲み取りながら本人とのコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。	サービス開始前に本人との面会や、他事業所からの情報を通じて現在までの生活歴や背景、現在困っている事や今後の生活に対する意向等を汲み取りながら本人とのコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族との面会や他事業所からの情報を通じて家族の意向や困りごとを十分理解するよう努めている。	サービス開始前に、家族との面会や他事業所からの情報を通じて家族の意向や困りごとを十分理解するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	退院後、施設入所を検討されているご家族が見学に来られた際に、本人や家族の情報から、リハビリの必要性を感じた為、病院のSWへ介護老人保健施設の情報を尋ねてみてはどうかとお伝えした方もいた。	退院後、施設入所を検討されているご家族が見学に来られた際に、本人や家族の情報から、リハビリの必要性を感じた為、病院のSWへ介護老人保健施設の情報を尋ねてみてはどうかとお伝えした方もいた。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人介助させていただく際には必ず声を掛け、どのような介助を行うか説明し同意を頂いている。また、時には職員から分からない事を伺い一緒に何かをする事で暮らしを共にしている関係を気付いている。しかし、意見の表出が難しい方もおり、一方の立場にある方もいる。	お一人お一人介助させていただく際には必ず声を掛け、どのような介助を行うか説明し同意を頂いている。また、時には職員から分からない事を伺い一緒に何かをする事で暮らしを共にしている関係を気付いている。しかし、意見の表出が難しい方もおり、一方の立場にある方もいる。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスで面会制限が続いていた為、お手紙や電話連絡、メールを通じ状況をお伝えしている。現在はビデオ通話を利用したり、短時間ではあるが、密を避けながら面会をして頂き、家族との絆を大切にさせて頂いている。	新型コロナウイルスで面会制限が続いていた為、お手紙や電話連絡、メールを通じ状況をお伝えしている。現在はビデオ通話を利用したり、短時間ではあるが、密を避けながら面会をして頂き、家族との絆を大切にさせて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が面会に来た際には一緒に外出をしていただき、馴染みの店への訪問や、自宅へ戻り過ぎて頂いている方もおられる。	家族が面会に来た際には一緒に外出をしていただき、馴染みの店への訪問や、自宅へ戻り過ぎて頂いている方もおられる。	利用者一人ひとりのこれまでの家庭や地域での暮らしの様子、馴染みの場所、人とのつながりなどを把握し、支援に活かしている。感染症防止のため制約もあるが、同じ市内にある公園や足湯に出かけたり、敬老祝いに市からもらった商品券を利用しての買い物もあった。馴染みの美容室を利用する方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置等、入所者同士の関係性を考慮している。	席の配置等、入所者同士の関係性を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご家族から本人の様子を聞かせて頂いたり、お亡くなりになった際には代表が葬儀に参列させて頂いている。	退所された後も、ご家族から本人の様子を聞かせて頂いたり、お亡くなりになった際には代表が葬儀に参列させて頂いている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向についてはその都度確認し、サービス計画書に記載している。意思の表出が難しい方に対しては日々の暮らしの中での発言や表情、仕草、行動を見ながら思いの把握に努めてる。	意向についてはその都度確認し、サービス計画書に記載している。意思の表出が難しい方に対しては日々の暮らしの中での発言や表情、仕草、行動を見ながら思いの把握に努めてる。	利用者の受け持ち制をとり、より細やかに利用者の思いや意向を汲み取っている。入浴支援の際に心を開く方もあり、その方の心に寄り添う良い機会でもある。利用者の思いは全職員が共有し、次の支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や介護サービスを利用されていた場合は担当ケアマネジャー、利用していた施設などに情報を頂く事で把握している。	ご家族や介護サービスを利用されていた場合は担当ケアマネジャー、利用していた施設などに情報を頂く事で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態については定期的にアセスメントを行い、入退院時等状態変化時にもアセスメントを行っている。一人ひとりの一日の過ごし方については入所者各個人の意向を聞いてない部分もある。	心身の状態については定期的にアセスメントを行い、入退院時等状態変化時にもアセスメントを行っている。一人ひとりの一日の過ごし方については入所者各個人の意向を聞いてない部分もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は本人、家族の意向を伺い作成している。新しく入所された方は入所後の状態把握が難しい為、1ヶ月の暫定プランを作成し承認を得て、その後3ヶ月～6ヶ月の短期目標期間を設けている。また、毎月のモニタリングは各担当職員に行ってもらい、計画作成担当者がまとめている。この他にも職員ミーティングや朝のカンファレンス時に意見を交わしたり、状態変化時は必要に応じて家族様を交え話し合いの場をもち計画書に反映している。	介護計画書は本人、家族の意向を伺い作成している。新しく入所された方は入所後の状態把握が難しい為、1ヶ月の暫定プランを作成し承認を得て、その後3ヶ月～6ヶ月の短期目標期間を設けている。また、毎月のモニタリングは各担当職員に行ってもらい、計画作成担当者がまとめている。この他にも職員ミーティングや朝のカンファレンス時に意見を交わしたり、状態変化時は必要に応じて家族様を交え話し合いの場をもち計画書に反映している。	利用者の視点にたつて、利用者がその人らしく暮らし続けるための介護計画である。利用者や家族の意向を反映し、日常的な関わりの中から、具体的で実現可能な介護計画が立案されている。担当者会議には家族も出席している。介護計画は、一定の期間に捉われないで、臨機応変に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は手書きの介護経過記録とパソコンでのケース入力、支援経過をそれぞれ行っている。計画書更新時やモニタリング記録作成時はこれらの記録から情報を得る事もある。	日々の様子は手書きの介護経過記録とパソコンでのケース入力、支援経過をそれぞれ行っている。計画書更新時やモニタリング記録作成時はこれらの記録から情報を得る事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、1名の認知デイ利用者がおられるが、ご家族様の都合に合わせて延長利用(自費利用)して頂く事もある。	現在共用型の認知デイは受け入れていない。現時点では柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス流行前はあんしん相談員さんの受け入れや地域の方々が参加しているフラダンスの慰問を受け入れていたが、現在は受け入れ出来ない状況である。しかし、近隣の散歩をする際にはご近所さん達から入所者へ声を掛けて頂いたり、時にはご自宅にお邪魔してお茶を飲まれる事もあった。	近隣の散歩をする際にはご近所さん達から入所者へ声を掛けて頂いたり、時には立ち話をするなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所に伴い、事業所の提携先医療機関へ変更された方もおられれば、以前からのかかりつけ医療機関への受診を希望されている方はご家族の協力の下受診されている。	入所に伴い、事業所の提携先医療機関へ変更された方もおられれば、以前からのかかりつけ医療機関への受診を希望されている方はご家族の協力の下受診されている。	利用者や家族が希望する病院での受診である。利用者のほとんどが協力医療機関の主治医から診てもらっている。協力医療機関とは24時間体制で何時でも相談や受診ができる関係にあり、毎週定期的な往診もある。歯科医も月2回の往診である。職員に歯科衛生士もいて口腔ケアも万全である。受診にあたってはスタッフも同伴し、その結果や薬の変更等も家族にお知らせしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で、気になった事や入所者の気になったことは経過記録や申し送りノートに記載し朝礼時等に伝達している。また、定期往診や受診時には職員が医師へ状態説明を行っている。	日々の中で、気になった事や入所者の気になったことは経過記録や申し送りノートに記載し朝礼時等に伝達している。また、定期往診や受診時には職員が医師へ状態説明を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報提供を行い退院時は医療機関のソーシャルワーカーや退院支援看護師とホームの看護師や管理者が連携を図っている。	入院時は医療機関へ情報提供を行い退院時は医療機関のソーシャルワーカーや退院支援看護師とホームの看護師や管理者が連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合ホームとしての指針は、入所時に本人と家族に説明し、了承を得ている。看取りに関しては未実施ではあるが、かかりつけ医療機関と連携を図り、終末期にはご家族の意向を再度確認を行う体制である。今後の課題としてホームでの看取りを希望された際には職員体制や状態への対応等の課題があるので、勉強会等への積極的参加を行い職員のスキルアップも必要である。	重度化した場合ホームとしての指針は、入所時に本人と家族に説明し、了承を得ている。看取りに関しては未実施ではあるが、かかりつけ医療機関と連携を図り、終末期にはご家族の意向を再度確認を行う体制である。今後の課題としてホームでの看取りを希望された際には職員体制や状態への対応等の課題があるので、勉強会等への積極的参加を行い職員のスキルアップも必要である。	入居契約時に指針を基に重度化した場合や医療に対する支援全般について丁寧に説明し、利用者や家族の納得を得ている。利用者の健康状態に変化があれば、家族に連絡を取り、家族の意思を確認している。看取り介護の事例は無いが、今後の課題と捉えている。	今後、安らかな最期をホームで「終の棲家」として迎えたいと希望する家族も考えられる。現在、それらに備えての諸課題を考慮中である。「目標達成計画票」にも「看取り介護」が目標とされており、その検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時と昨年度に全職員を対象としたAED講習会を業者へ依頼し実施。今年度1ユニット増設し新たに入職した職員に対しては新型コロナウイルスの影響もあり未実施である。緊急時や状態変化時は看護師や協力医療機関へ連絡し指示を受けている。	開設時と昨年度に全職員を対象としたAED講習会を業者へ依頼し実施。今年度1ユニット増設し新たに入職した職員に対しては新型コロナウイルスの影響もあり未実施である。緊急時や状態変化時は看護師や協力医療機関へ連絡し指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難誘導訓練を実施している。(今年度は6月、11月実施) 夜間を想定した避難は未実施である。災害時には協力頂けるよう地域の応援依頼は行っている。土砂災害ハザードマップに指定されているため、災害時は近隣の公民館への避難を行う体制づくりを始めている。非常時の食料、飲料水は2日程度の備蓄をしている。	年2回の避難誘導訓練を実施している。(今年度は6月、11月実施) 夜間を想定した避難は未実施である。災害時には協力頂けるよう地域の応援依頼は行っている。土砂災害ハザードマップに指定されているため、災害時は近隣の公民館への避難を行う体制づくりを始めている。非常時の食料、飲料水は2日程度の備蓄をしている。	消防計画に基づき年2回の火災想定避難誘導訓練が実施されている。自動通報装置も利用している訓練である。自然災害時に対する対応も運営推進会議でも取り上げ、地域の協力を得ての避難方法について検討している。 細部にわたる災害対策は検討の余地があると思われる。	2ユニットに増設した事もあり、近隣住民や地元消防団の協力、夜間想定避難訓練、利用者の居室からの避難確認の方法、避難経路や避難場所の再確認等の再検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語を使い入所者個人個人の性格を考慮しながら声掛けを行っている。プライバシーに関しては本人の自尊心を損ねないよう配慮し声掛けを行っている。	基本的に敬語を使い入所者個人個人の性格を考慮しながら声掛けを行っている。プライバシーに関しては本人の自尊心を損ねないよう配慮し声掛けを行っている。	利用者の尊厳や誇りを尊重することを諸支援の基盤にしている。「敬愛の心」を基本理念の一番目としている。接遇の勉強会も重ねており、特に言葉づかいに留意している。基本的には敬語を使い、なれなれしい言葉づかいにならないように留意している。支援に際してもさりげない言葉かけである。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意見を表出できる方に関しては可能な範囲で実現を図っている。意思の表出が難しい方に関しては本人の生活習慣や表情、仕草等で思いを汲み取ったり、いくつかの選択肢を提示し決定して頂いている。	自分の意見を表出できる方に関しては可能な範囲で実現を図っている。意思の表出が難しい方に関しては本人の生活習慣や表情、仕草等で思いを汲み取ったり、いくつかの選択肢を提示し決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとしては職員の業務の都合上になっていることが多いが、その中でも一人ひとりの希望(臥床や散歩等)に添えるよう支援しているが、不十分な点は多い。	一日の流れとしては職員の業務の都合上になっていることが多く、不十分な点は多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者はご自分が使い慣れた衣類を持参されており、身だしなみに関しては職員が衣類を整える介助を行っている。おしゃれに関しては化粧品を持参されている方は毎日ご自身でお化粧して頂いている。今後は化粧品を揃えメイクをして頂こうと準備中である。	入所者はご自分が使い慣れた衣類を持参されており、身だしなみに関しては職員が衣類を整える介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者配達を利用しており、職員が準備している。入所者の中には能力的に一緒に食事の準備が出来る方はいないが、食前後のテーブル拭きやコップの片付け等依頼をして協力して頂いている。新型コロナウイルスの影響で外食や以前依頼していたお寿司屋さんの来所は難しい状況の為、ホーム内で寿司バイキングやそうめん流しをしたり、手作りおやつは利用者のリクエストに応じている。	食材は業者配達を利用しており、職員が準備している。入所者の中には能力的に一緒に食事の準備が出来る方はいないが、食前後のテーブル拭きやコップの片付け等依頼をして協力して頂いている。新型コロナウイルスの影響で外食や以前依頼していたお寿司屋さんの来所は難しい状況の為、ホーム内で寿司バイキングやそうめん流しをしたり、手作りおやつは利用者のリクエストに応じている。	利用者と対面しながらの調理である。料理のにおいやキッチンのは利用者に食事への期待をもたせている。今日は何の料理？と尋ねる利用者に味見をしてもらうこともある。食事支援が必要になった時は、さりげない支援である。自慢の中庭でお茶の時間を過ごすこともある。干し柿の皮を剥いたり、おやつを一緒につくることもある。食事の準備や後片付け等は、利用者の心情を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配サービスを利用する事で、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎食時や入浴後、運動、レクリエーション後の水分補給、希望時には水分の提供を行い一日平均1,200～1,800ml摂取して頂いている。	食材の宅配サービスを利用する事で、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎食時や入浴後、運動、レクリエーション後の水分補給、希望時には水分の提供を行い一日平均1,200～1,800ml摂取して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き声掛け、誘導、能力に応じ介助を行っており、希望される方には訪問歯科診療を受けて頂いているが、	毎食後の歯磨き声掛け、誘導、能力に応じ介助を行っており、希望される方には訪問歯科診療を受けて頂いているが、	/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在布パンツ利用の方は4名おられる。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、時間毎に声掛けや誘導を行っている。出来る限りご自身で排泄して頂けるよう支援している。	現在布パンツ利用の方は1名おられる。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、時間毎に声掛けや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄情報が共有されており、個々に応じた支援である。体調によってのおむつ使用の方は1名であるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。排泄自立の方のトイレ利用時も、職員はそれとない言葉かけをし、そっと見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認を毎日行い、便秘傾向にある方は看護師より主治医へ報告し緩下剤を与薬したり、水分摂取を促している。また、便秘にならないよう適度な運動も毎日取り入れている。	排泄確認を毎日行い、便秘傾向にある方は看護師より主治医へ報告し緩下剤を与薬したり、水分摂取を促している。また、便秘にならないよう適度な運動も毎日取り入れている。	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所者は週3回の入浴を実施している。主に午前中の中の入浴としており、特に入浴時間に決まりは無く、湯あたりしない程度でゆっくりと入浴して頂いている方もいる。また希望があれば毎日入浴も可能である。入浴支援は個々の能力に応じて行っている。入浴拒否が頻回な方から「お風呂は夜入るもの」という言葉も出ており、夜間帯の入浴を検討したが、業務や職員体制上対応が難しい現状である為これからの支援課題である。	入所者は週3回の入浴を実施している。主に午前中の中の入浴としており、これから寒くなってくるので、ゆっくりと入浴して頂けるよう実施時間を伸ばす検討中である。また希望があれば毎日入浴も可能であり、入浴支援は個々の能力に応じて行っている。入浴の拒否はほぼなく、定期的実施出来ている。	浴室はA棟は一般浴槽・B棟は特殊浴槽を備えている。シャワーだけではなく、可能な限りお風呂に入ってもらうように支援している。特に冬場は、身体が温まるように配慮している。基本的な入浴日・入浴時間帯はあるが、利用者の希望に臨機応変に対応している。夜間入浴の希望に応えるべく数度にわたって検討したが、実現は難しかった。現在は「ちょっと贅沢しませんか」の言葉かけで昼間の入浴である。「脱衣場・浴室・トイレは何時も同じ温度で」と管理者は指導している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人一人の生活習慣に合わせた 休息、睡眠を支援している。夜間 帯眠れない方には無理に休んで 頂く、フロアでゆっくりとお茶や ホットミルクを提供し安心して休 んでいただけるよう支援している。	一人一人の生活習慣に合わせた 休息、睡眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	処方の変更があった際には日誌 や申し送りノート、個人記録に 記入し伝達している。しかし、 職員が全員処方薬の内容や副作 用まで理解しているとは言い難 く、今後の課題である。	処方の変更があった際には日誌 や申し送りノート、個人記録に 記入し伝達している。しかし、 職員が全員処方薬の内容や副作 用まで理解しているとは言い難 く、今後の課題である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	季節ごとの行事は各棟主催したり 、合同で行ったり、天気の良い 日は近隣へのドライブや散歩を してる。しかし、毎日の生活の 中で一人ひとり喜びや張り合 いを感じながら日々過ごしてい るとは言い難い現状である。	本人の希望で居室にパソコン や携帯電話を設置している方も いる。季節ごとの行事は各棟 主催したり、合同で行ったり、 天気の良い日は近隣へのドライ ブや散歩をしてる。しかし、毎 日の生活の中で一人ひとり喜 びや張り合いを感じながら日々 過ごしているとは言い難い現 状である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける るように支援している	天候の良い日は近隣への外出 や家族協力の下外出をされる 方もいる。ただ、日常的に外出 希望がある方に対して、可能 な範囲で対応しているが、業 務や職員の体制により希望に 添えない場合もある。	天候の良い日は近隣への外出 や家族協力の下外出をされる 方もいる。ただ、日常的に外出 希望がある方に対して、可能 な範囲で対応しているが、業 務や職員の体制により希望に 添えない場合もある。	季節や天候をみて、ホームの 周辺を中心に散歩している。 車椅子利用の方も一緒である。 散歩の途中に近隣の方からの 気安い声かけもある。新型 コロナウイルス感染防止に 十分に注意しながらの散歩 である。代表者は「場面を 変えての支援」の思いがあり 、利用者の気分転換やスタッ フの気持ちのリセットにもな っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	ご家族の希望もあり殆どの入 所者は現金を所持していない が、数名現金を持っている事 で安心される方もいるので 数千円程度所持されている 方もおり、金額は把握してい る。必要な物は家族に依頼 し購入持参して頂くか買い 物支援を行った際はホーム で立替えをし、利用料と一緒 に請求している。	ご家族の希望もあり殆どの入 所者は現金を所持しておらず 、必要な物は家族に依頼し 購入持参して頂くか買い物 支援を行った際はホームで 立替えをし、利用料と一緒に 請求している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望される方には連絡する様にしているが、ご家庭の事情もあり直接の電話を断られる家族もいるため、実現はほとんどしていない。	ご家庭の事情もあり直接の電話を断られる家族もいるため、実現はほとんどしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭からホームに光が差し込む作りとなっており、居室のドアを開けるとリビングの状況が見えるようになっている。	リビングは中庭からホームに光が差し込む作りとなっており、居室のドアを開けるとリビングの状況が見えるようになっている。	どの共有空間も静かで明るく、快適に過ごせる空間である。安全な暮らしにも十分に配慮されている。居間や居室に面した中庭にはモミジが植栽され、四季の移り変わりを感ずることができる。家庭菜園や地域の方からもらった菊の鉢植えもある。時には、お茶やおやつを楽しむ場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには4～5人用のテーブル2つとソファを設置している。席の配置は入所者同士の関係性を考慮している。	フロアには4～5人用のテーブル2つとソファを設置している。席の配置は入所者同士の関係性を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人が使い慣れた家具や仏壇を持参されている方もいる。	入所時に本人が使い慣れた家具や仏壇を持参されている方もいる。	家族の協力を得ながら、利用者が落ち着いてゆつくりと過ごせる居室になっている。清掃が行き届いた居室には、自分用のテレビ、使い慣れた手鏡や時計、家族写真その他いろいろなものがあり、利用者や家族の思いが伝わってくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内や廊下には手すりを設置する事で、歩行時の不安解消に繋がっている。またトイレの表示や書く居室入り口には灯笼型の表札を設置する事で入所者一人ひとりが自分の居室という認識を持って頂いている。	居室内や廊下には手すりを設置する事で、歩行時の不安解消に繋がっている。またトイレの表示や書く居室入り口には灯笼型の表札を設置する事で入所者一人ひとりが自分の居室という認識を持って頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
			○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない